

みごろの花&生きもの 散策コースマップ 2022

10月中旬～11月中旬

みごろスタンプ
園内に
ミニスタンプ
があるよ。
さがしにいこう！

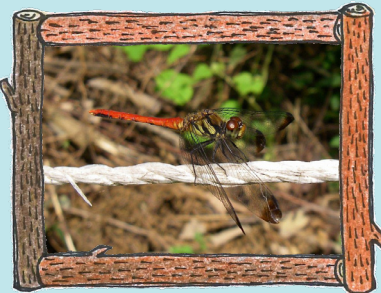
----- 季節のおすすめ散策コース -----
(ゆっくり歩いて1時間)

----- おてがるコース -----
(ゆっくり歩いて30分)

いきもの



アサギマダラ(タテハチョウ科)
秋に南へ向かって旅をするチョウ。旅の途中、フジバカマやヒヨドリバナへよく吸蜜にきます。



リスアカネ(トンボ科)
赤トンボの一種。林のそばの少し暗い池沼を好む。



ノスリ(タカ科)
小型のタカの仲間。秋から冬にかけての渡りの時期によく姿を見かけます。



タコノアシ(タコノアシ科)
タコの足を引っくり返したような形からこの名前がつけました。秋の紅葉シーズンには赤く色づき、まるでゆでタコのような。

リンドウ(リンドウ科)
根は生薬として利用されてきましたが、胆汁のようにものすごく苦いことから「竜の胆汁」で「竜胆(りんとう)」という名前になったそうです。

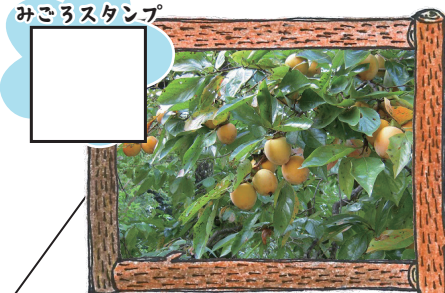
センブリ(リンドウ科)
湯の中で千回振り出してもまだ苦みが残るほど苦み強いことから、センブリと呼ぶそう。胃薬としても利用されてきました。

コバノガマズミ(実)(ガマズミ科)
春に小さな白い花が咲きます。よく似たミヤマガマズミよりも葉っぱが細く、さわるとふわふわした手触りです。

ススキ(イネ科)
秋の草地を代表する植物。秋の七草の尾花です。藍那では、茅葺屋根の材料として利用されてきました。



ノブドウ(実)(ブドウ科)
紅色から淡い水色まで、カラフルな実をつけます。見た目は美しいですが、中には虫が入っていて食べられません。



カキノキ(実)(カキノキ科)
果実は食用や柿渋の材料に、葉はお茶になる、有用な植物です。里山には多く植えられています。



ワレモコウ(バラ科)
暗紅色の小さな花が集まって、一つの穂をかたちづいています。



ゲンショウコ(フウロソウ科)
苔から、整腸薬として重宝されてきた野草。



ナワシログミ(グミ科)
稲の苗代が育つころ、つまり田植えのころに実が熟することからついた名前です。花は秋にひっそりと咲きます。



リュウノウギク(キク科)
日当たりのいい丘陵地や山地に生育する白いキク。葉を揉むと樟脳のような香りがします。



ケシロヨメナ(キク科)
シロヨメナの中でも葉の裏や茎に毛が多いタイプ。山地や林縁の木陰でよく見られます。



ヤクシソウ(キク科)
名前の由来ははっきりしませんが、薬草として使われていたからという説もあります。



ヤマハッカ(シソ科)
山に咲くハッカの仲間ですが、ハッカの香りはせず、メントールも採れません。



イスタデ(タデ科)
役に立たないことからこの名がついたそう。ピンク色の花穂がかわいらしいですね。